

東京都新型コロナウイルス感染症対策審議会の書面開催の結果について
(令和4年1月18日開催)

1 委員

- ◎猪口 正孝 東京都医師会 副会長
太田 智之 みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社
調査本部 チーフエコノミスト
大曲 貴夫 国立国際医療研究センター 国際感染症センター長
紙子 陽子 紙子法律事務所 弁護士
濱田 篤郎 東京医科大学病院 渡航者医療センター特任教授
(◎は会長)

2 議事

レベルの移行について (案)

3 審議会の意見等

レベルの移行について (案) は、妥当である。

(猪口会長)

国の目安におけるレベル2は「段階的に対応する病床数を増やすことで、医療が必要な人への適切な対応ができていく状況」としており、これを受けて都では「3週間後の病床使用率が確保病床数(6,919床)の約20%に到達」を目安と定めた。今回オミクロン株の流行拡大スピードが速く、3週間後の予測値を立てる時間もないほどであり、1月17日時点で病床使用率は21.1%となってしまった。今レベル2として、都民に注意喚起を行い、感染予防行動を徹底していただくことは重要であり、適と考える。

(太田委員)

感染警戒レベルを現在の1から2に移行することについて、事前に示した客観的な指標である入院病床使用率が移行基準に到達しており、妥当な判断と考える。

(大曲委員)

レベル2への移行に賛成致します。

(紙子委員)

レベル2への移行は適切である。

東京都では、新型コロナウイルス感染症患者が急増し、自宅療養者も1万名を超えており、医療提供体制の状況については、現状よりも先を見て対応していく必要が生じている。したがって、国のレベル分類指標「レベル1（維持すべきレベル）」より、「レベル2（警戒を強化すべきレベル）」へ移行させることが妥当であると考ええる。

既に東京都はレベル1の段階でコロナ対応病床を増やしており、現状として国の目安の「レベル2（段階的に対応する病床数を増やすことで、医療が必要な人への適切な対応ができている状況）」に合致しているのではないかと考える。

（濱田委員）

都のレベルを上げることについては、とくに異論はありません。